

式辞

卒業生諸君、この度は長崎国際大学、そして大学院ご卒業おめでとうございます。一年以上も続くコロナ禍の中、未練の残る決断となりますが、この記念すべき卒業式が他の多くの大学と同様、変則的となりますことを心からお詫び申し上げます。

この一年というもの、コロナ禍のため、二度にわたる緊急事態宣言のもとで、諸君の学習、アルバイト、部活動など、計り知れない自由度の制約があり、さぞ息苦しい中で時間が流れたのであらうとご推察申し上げます。

そもそも思まわしい言葉となつてしまつた「三密を避ける」という言葉の三密は、重要な仏教用語で「身密・口密・意密」という言葉からなります。この言葉の対極には、三断、すなわち分断・切断・独断という言葉があるのです。密に接触を図り、密に言葉をかわし、密に心を通わせながら悟りを開くというもので、学生時代の日常とはまさにこの三密を實踐していくことにあつたはずでした。しかしコロナ禍の中で、前述の「分断・切断・独断」をよしとする生活を強いられました。にも拘らず、諸君はよくぞこれに耐え、卒業に漕ぎつけてくれました。その努力と忍耐を讃えるときにも、心からありがとう、と教職員を代表してお礼を述べたいと思います。

「今春が来て君は綺麗になつた」と歌つたのは昭和のフォークソングの名曲「名残り雪」に込めた伊勢正三の想いでしたが、いま、こうして卒業式に列席してくれた卒業生諸君の頼もしい顔を垣間見ながら「今春がきて君は素敵になつた」と賛辞を送ります。

「人生には二つの悲劇がある。一つは願いが達せられないこと。もう一つはそれが達せられないこと。」と言つたのは劇作家バーナード・ショウでしたが、コロナ禍の中、学生生活に未練を残しながら新たな人生を歩むことになりました。この一年感じてきた、この不条理に対する何とも知れないやるせなさ、怒り、悲しみ、心残りをばねにしてより充実した人生を送るために我々は、前に向かって進んでいかねばなりません。

長崎国際大学で育つた学生諸君には、この四年間、或いはそれ以上の時間で習得したものをベースに、単なる見てくれや印象にとらわれない本物の人間力を備えた社会人に更にヴァージョンアップし、コロナ禍が明け、躍進していかなければならないわが国日本のロコモティブとなつていただきたいと願っております。心の中に明日は今日よりも、というあすなろの木を育てていきながら、一度しか与えられない命を、そして健康を大事にし、豊かな人生を送られんことを心から希っております。

令和三年 三月十三日

長崎国際大学 学長 安東 由喜雄